

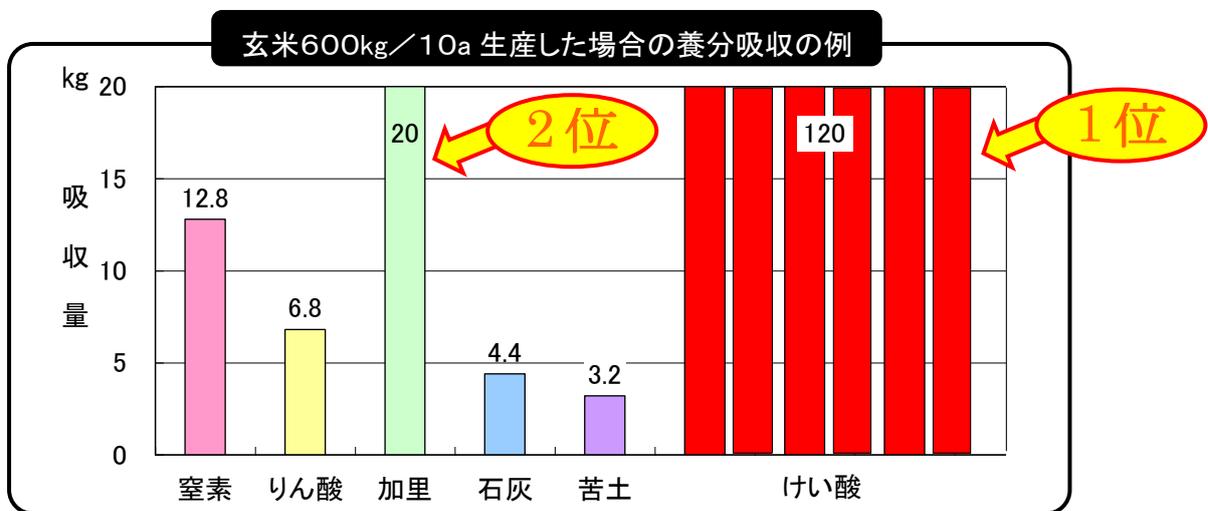
# 中間追肥とけい酸加里/営農情報

けい酸加里が誕生して30年近く経ちますが、水稻の中間追肥にとっても多く使われています。ではなぜ、中間追肥に使われているのでしょうか？

## 水稻はケイ酸とカリを多く吸収します

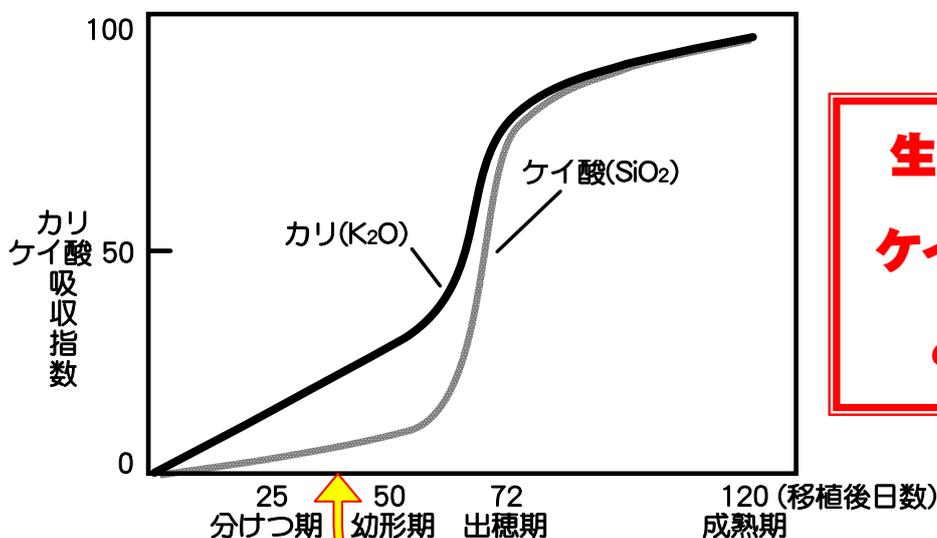
水稻で一番多く吸収されるのはケイ酸です。窒素の約10倍も吸収され、他の成分と比較してもずば抜けて吸収量が多いことが分かります。

二番目によく吸収されるのはカリです。窒素の約1.6倍吸収され、ケイ酸と同じく重要な成分であることが分かります。



## ケイ酸とカリは生育後半に多く吸収されます

ケイ酸とカリは特に生育後半に多く必要とされ、全吸収量のうちケイ酸は約90%、カリは約70%が幼形期以降に吸収されます。



**生育後半にむけての  
ケイ酸とカリの補給は  
とても大切です。**

**中間追肥の時期**

(水稻のカリ、ケイ酸の吸収指数経時間変化 江崎幹夫 1995)

## けい酸加里の効果

### ○光合成が活発化する

稲の葉がピンとたち、下層部へも光が差し込むため光環境が良くなります。また、ケイ酸が多いと午後になっても光合成速度が低下せず、デンプン生成を活発化するのにとても重要な役割を果たします。

### ○倒れにくくなる

稲体に加里が多いと、稈が強くなり倒れにくくなります。又、受光態勢が良くなり下葉の枯れ上がりが抑えられることで、下位節間が強化されます。

### ○根張りが良くなる

ケイ酸と加里の相乗効果で根張りが良くなり、根が活性化します。

### ○病気や異常気象に強い丈夫な稲になる

ケイ酸が、モミ殻や茎葉に集積することで、ケイ化細胞を強固にし、病原菌の進入を防ぎます。これにより、いもち病やごま葉枯病にかかりにくくなります。又、加里は日照不足による光合成の低下を抑えるため日照量の少ない時でも、登熟を助け、収量の減少を軽減します。

### ○粒厚、登熟歩合が向上する

光合成によって出来たデンプンを加里がモミまでしっかり運ぶので、粒厚が高まり登熟も良くなります。

### ○タンパク質割合が低下し、食味が向上する

ケイ酸の働きでデンプンを多く生成し、加里の働きでデンプンをモミへ運ぶため、米粒が大きくなります。これにより米の中のタンパク質割合が低下するため、食味が向上します。



## 中間追肥の頃の水田



### 使い方

施肥時期	出穂前45～35日
施肥量	20～40kg/10a

### 保証成分

＜溶性加里＞	可溶性けい酸	＜溶性苦土＞	＜溶性ほう素＞
20	34	4	0.1

開発肥料株式会社